

27 水と緑による快適空間づくり			
主管課名	環境部 緑と公園課		
主管課長名	香西 稔	電話番号	042-481-7080
関係課名 (組織順)	文化生涯学習課, 産業振興課, 農政課, 環境政策課, 下水道課, 都市計画課, 街づくり事業課, 道路管理課, 郷土博物館		
目的	対象	自然, 市民	
	意図	自然が保全・創出される, 自然との共生が図られる	
施策の方向	人と自然との共生を目指すために, 湧水, 公園, 崖線, 里山などの水辺や緑地を保全し, 連続性のある自然動植物の生息空間と緑豊かな美しい街並み・景観を形成する快適な空間づくりに取り組みます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



## 1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
(27-1 水と緑の保全)	<p>・崖線樹林地等における市民団体による保全活動や公遊園清掃協力などの市民や団体の保全活動への支援や人材の育成などにより協働による公園・緑地, 崖線樹林地の維持保全を進めた。また, 緑地の連続性や地域の特性を踏まえ, 緑の保全を図るため, 地域性緑地制度を活用し, 深大寺元町特別緑地保全地区において, 公有化を進めた。さらに, 深大寺自然広場における概ね 10 年後の将来像を見据えた崖線樹林地の保全管理計画の策定に向けた調査検討を行った。</p> <p><b>①横断的連携による施策の推進</b></p> <p>■連携テーマ2 「にぎわいと潤いのあるまちづくり」</p> <p>・緑の基本計画の検討では, 庁内組織である緑の基本計画策定推進連絡会を組織し, 連携を図った。</p> <p>■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」</p> <p>・ラグビーワールドカップ2019, 東京2020大会を緑と花があふれるまちとして迎えるため, 調布・西調布・飛田給の駅前で花いっぱい運動に取り組んだ。春の調布駅の花の植付けイベントでは, 調布スクラムフェスティバルと同日に実施し, 多くの市民に参加いただいた。</p> <p><b>②調布のまちの魅力発信</b></p> <p>・市内の特徴的な緑である崖線樹林地の保全を図るため, 深大寺自然広場の保全管理計画の策定を進めた。</p>
(27-2 水と緑の創出)	<p>・京王線連続立体交差事業によって創出された線路跡地を有効活用するため, 鉄道敷地整備計画に基づき, 2箇所（相模原線（小島町2丁目）, 西側端部（下石原1丁目））の公園の整備に取り組んだ。</p> <p>・地域ニーズに合わせた整備を計画的に実施するため, 公園・緑地機能再編整備指針に基づき, 多摩川市民広場周辺地区における機能再編整備を進めた。</p> <p><b>①横断的連携による施策の推進</b></p> <p>■連携テーマ2 「にぎわいと潤いのあるまちづくり」</p> <p>・過年度に実施した鉄道敷地（相模原線）内での暫定開放による市民アンケート調査や整備に向けた市民との意見交換会の結果を公園整備に反映させた。</p> <p><b>②調布のまちの魅力発信</b></p> <p>・「鬼太郎ひろば」の開園に伴い, オープニングセレモニーを開催したほか, 市報・市ホームページ等で周知し, 「水木マンガの生まれた街 調布」の魅力を発信した。</p>
(27-3 深大寺・佐須地域環境資源保全・活用の推進)	<p>・深大寺・佐須地域の田園風景の保全を目的として, 新たに公有地を取得した。</p> <p>・「雑木林ボランティア講座」, 「こどもエコクラブ」等を開催し, 市民の環境保全意識の啓発を図った。</p> <p><b>①横断的連携による施策の推進</b></p> <p>■連携テーマ2 「にぎわいと潤いのあるまちづくり」</p> <p>・深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画に基づき, 買取り申出に応じて調布市土地開発公社が先行取得した土地において, 環境教育・環境学習や市民の環境保全活動を行う場として暫定利用を行った。</p> <p><b>②調布のまちの魅力発信</b></p> <p>・市と都立農業高校の相互連携基本協定に基づき都立農業高校の神代農場を活用して実施する「自然環境教室」を5回開催して延べ72人の参加があり, 武蔵野の自然や環境について学んだ。</p>

**<令和元年度における施策の成果についての総括>**

- ・市内の湧水涵養・治水対策として、既存住宅、新規住宅、開発区域内、公園に3,268基の雨水浸透枳及び3,300mの浸透トレンチを設置した。
- ・「調布らしい多様な緑をまもり、活用する」取組として、深大寺元町特別緑地保全地区において、約3,571㎡を用地取得した。深大寺自然広場については、概ね10年後の将来像を見据えた崖線樹林地の保全管理の保全管理計画の策定に向け、調査・検討を進めた。
- ・公園施設長寿命化計画に基づき5基（5公園）の遊具を更新し、安全・安心な公遊園の維持を図った。
- ・ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会を緑と花があらわれるまちとして迎えるため、調布・西調布・飛田給の駅前で花いっぱい運動を実施した。
- ・令和2年度に計画期間が満了する緑の基本計画について、次期計画策定に向けた調査・検討を進めた。
- ・公遊園における受動喫煙防止対策として、看板設置等により周知を図った。

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	公共が保全する緑の面積【☆、◎】	149.07 (H29)	ha	149.29	149.70
2	市民一人当たりの公園面積【☆、◎】	5.54 (H29)	㎡	5.45	5.50 以上
3	区域での環境学習等の延べ参加人数【☆、◎】	6,023 (H29)	人	6,455	6,300
【備考】					

**2 令和元年度の振り返り — 評価 (CHECK)**

総合評価	<b>A</b>	S:「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」 A:「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」 B:「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」 C:「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」 D:「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発等により保全地区の面積が減少したものの、地域制緑地制度の活用による公有地化により、公共が保全する緑の面積が増加したため。</li> <li>・人口増加により、一人当たりの公園面積は減少し、令和4年度の目標値である5.50㎡を下回る結果となったが、公遊園の面積総量は増加したため。</li> <li>・令和元年度における深大寺・佐須区域での環境学習等の延べ参加人数は目標値を達成したため。</li> </ul>	

**3 施策の方向 — (ACTION)**

区分	今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組、●：新規の取組、○：拡充の検討を要する取組
令和2年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>★中長期的な視点に立って緑地の適正な保全や緑化の推進を総合的かつ計画的に実施するための緑の基本計画の策定に向け、令和元年度に引き続き調査・検討を進める。また、市内に残る貴重な緑を次世代に継承するため、みんなの森特別緑地保全地区、深大寺元町特別緑地保全地区において、概ね10年後の将来像を見据えた崖線樹林地の保全管理計画の策定に向けた調査・検討を進める。安全・快適な公遊園の維持のため、長寿命化計画に基づき公遊園の遊具を更新する。</li> <li>★地域二 zones に合わせた整備を計画的に実施するため、多摩川市民広場周辺地区に続き、凸凹山児童遊園及び若宮自然広場周辺地区の機能再編整備計画の策定に向けた調査・検討を進める。</li> <li>★深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画の区域内において土地開発公社が先行取得した土地について、東京都の「農の風景育成地区」制度を活用し、都市計画の決定手続を進め、生活文化スポーツ部と連携して進めている農業公園の整備に向けた実施設計を行う。</li> <li>★大規模イベントに向けた取組を契機とした花いっぱい運動の全市的な展開に取り組む。</li> </ul>
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応	・飛田給駅・西調布駅・調布駅花いっぱい運動について、調布駅前おもてなしガーデンへの春の植付けイベントを中止した。
東京2020大会開催延期に伴う対応	★東京2020大会の延期により、花修景の内容を見直すとともに、ボランティアによる花壇の維持管理活動を縮小した。
台風への対応を踏まえた災害対応	○台風等の強風に伴う樹木倒木による被害の軽減を図るため、崖線樹林地等の樹木の健全度調査を行う。
令和3年度以降の計画期間内の取組 (令和2年度から継続する取組を除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公遊園・緑地、崖線樹林地の樹木の健全度調査及び危険性の除去</li> <li>○農業公園の整備</li> </ul>

## 27 水と緑による快適空間づくり

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	公園・緑地、崖線樹林地の保全	⑤	●	緑と公園課	崖線樹林地等の保全を推進するとともに、崖線樹林地等における市民団体による保全活動に対して、支援の充実を図る。 市民グループによる公園清掃協力等を推進するほか、樹木せん定入門講座等の市民向けの講座の実施を通じて、市民活動への参加意欲を醸成する。 東京2020大会に向け、花いっぱい運動を展開するとともに、大会後も持続できる仕組みづくりを併せて行う。 借地公園の公有化を進める。 公園施設長寿命化計画を推進する。 公園便所の整備・改築を進める。
2	公園・緑地等の整備	⑤	●	緑と公園課	緑の基本計画に基づき、公遊園等の不足地域の解消を図るなど整備を行う。 新たな公園の整備や公園・緑地機能再編整備プランに基づく整備を行うに当たっては、設計段階からワークショップなど市民参加方式を取り入れることにより、地域のコミュニティの核となる空間として、親しみのある利用しやすい施設として整備する。 崖線樹林地の活用・保全のための必要な整備を行う。
3	深大寺・佐須地域の里山、水辺環境の保全・活用	⑤	●	環境政策課	深大寺・佐須地域の豊かな環境を調布の財産として次世代に引き継いでいくために、「調布市深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」に基づき、緑地や都市農地等、地域の環境資源の維持・保全・活用に向けた取組の推進を図る。 地権者との合意形成を図りながら、同地域における営農支援につながる事業を引き続き進めるとともに、地域の農に対する理解を促進するための取組や市民との協働による環境保全に向けた取組を行う。

27 水と緑による快適空間づくり

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R1 決算事業費(千円)	令和元年度の取組実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向性							今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関連する内容は冒頭に◆印を記載しています)	
								R1 取組実績			方向性					
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	有効性改善	効率性改善	財政面改善	参加と協働改善		改善余地なし
1	公園・緑地、崖線樹林地の保全	⑤	●	緑と公園課	737,902	崖線緑地等への来園者が安全で快適に利用できるよう、市民団体（5団体）と協働し、崖線樹林地保全活動を実施した。また、国分寺崖線入間町2丁目地区の保全管理計画に基づき具体的な管理手法に関する市民対象の勉強会の実施のほか、深大寺自然広場保全管理計画策定に向けた市民を交えた検討を行った。 市民が花や緑に関心を持てるよう、ガーデニング講座（受講者各回12名）を4回、樹木せん定入門講座（受講者20名）を1回実施した。 国分寺崖線深大寺地区において、特別緑地保全地区に指定している深大寺元町特別緑地保全地区3571㎡を取得した。 公園施設長寿命化計画に基づき、5基（5公園）の遊具を更新した。 市民グループ（20団体）による公園の清掃協力の取組を支援した。 花いっぱいサポーター養成講座を実施し、飛田給駅前・西調布駅前・調布駅前におもてなしガーデンを設置した。	◎		●					●	崖線樹林地等の保全を推進するため、引き続き、市民団体との協働や活動支援をはじめとした現在の取組を継続的に実施していく中で、花いっぱい運動事業等を重点的に行うほか、緑地の公有地化などを進めていく。 公園施設長寿命化計画に基づき、公遊園の補修工事や遊具の更新・補修を実施していく。 東京2020大会の開催延期に合わせて、令和3年度も花いっぱい事業を継続するとともに、事業の平準化を図る必要がある。	
2	公園・緑地等の整備	⑤	●	緑と公園課	149,085	「多摩川市民広場改修と周辺地区の機能再編整備プラン」に基づく多摩川市民広場の整備において、広場に隣接する河川敷に階段を設置した。 公園整備については、鉄道敷地公園のうち、相模原線の公園用地に関する整備工事を行ない、令和2年4月2日からの暫定開放につなげた。なお、鉄道敷地公園のうち、西側端部で予定していたトイレ整備については、入札の関係により、令和2年度に繰り越して整備することとした。	○		●			●	緑の基本計画に基づき、引き続き、新設公園や崖線の整備を推進していく。なお、調布基地跡地留保地スポーツ・防災公園については、公園用地取得に係る財源確保が困難な状況であるため、令和2年度以降に改めて検討を行うこととしている。 引き続き、多摩川自然広場整備や鉄道敷地公園の西側端部のトイレ整備を進めるほか、令和2年度から凸凹山児童公園及び若宮自然広場等に関する基本構想の策定に着手し、計画的な公園整備を図る。 深大寺・佐須地域の土地開発公社が取得した土地の活用については、農業公園として整備を進めることとしたため、関係部署と連携・調整を図りながら取組を進めていく。			
3	深大寺・佐須地域の里山、水辺環境の保全・活用	⑤	●	環境政策課	2,650	深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画に基づき、平成29年6月に調布市土地開発公社が取得した深大寺南町2丁目用地（畑地）については、引き続き教育委員会や環境市民団体と連携して暫定利用を行い、隣接する市立柏野小学校の児童を対象とした環境教育や環境市民団体による市民向けの環境学習に活用した。また、令和2年度に実施予定の、農業公園の都市計画決定及び運営検討・検討整備に向けた設計を行った。 令和元年11月に調布市土地開発公社が取得した深大寺南町1丁目用地（田んぼ）の暫定活用に向けて、関係者と調整・検討を行った。 東京都補助事業である「農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用して設置している「調布市佐須農の家」の運用を行った（貸出件数：延べ39件、利用者数：延べ508人）。	◎		●				●	深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画に基づき、特に環境資源の重要な要素である都市農地の維持を目指し、地権者等の意向を尊重しながら事業を推進していく。 また、「調布市佐須農の家」を拠点として、同地域における営農支援につながる事業を継続的に実施するとともに、里山環境保全の大切さを啓発する事業や、地域の農に対する理解を促進するための環境整備に取り組んでいく。 引き続き、平成29年6月に土地開発公社が取得した土地（深大寺南町2丁目畑地）について教育委員会や環境市民団体と連携して暫定利用を継続するほか、令和2年度に当該地を調布市土地開発公社から買戻しするとともに、今後の本格活用に向けて、具体的な整備の検討・準備に取り組んでいく。		
								0	3	0	0	1	0	1	1	計
								0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	割合（%）

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑧事務事業一覧（施策体系順）」をご参照ください。